



‘頑張る’を‘確認作業’に変える‘準備の力’

1/8(木)、3学期がスタートしました。始業式では、新しい年の目標を胸に抱く子どもたちへ、「目標を達成するための本当のコツ」について話をしました。

今回は、東大生の学習術を研究する「チームドラゴン桜」の知見（西岡壱誠監修『なぜか目標達成する人が頑張る前にやっていること』）を参考に、大人にも役立つ「努力の仕組み」を紐解きました。

私たちはよく「三日坊主」となると自分の意志の弱さを責めてしまいがちです。しかし、人が頑張れない最大の理由は、意志の強さではなく「準備不足」にあります。「何を・いつ・どうやるか」が曖昧なまま走り出してしまうから、途中で迷いが生じるのです。

講話では、東大生などの目標達成者が共通して行っている「頑張る前の準備」を3点伝えました。

1 自分の「型」を知る

自分の性格や学習のクセに合わせた「4タイプ」の攻略法を知ることで、無理のないスタートが切れます。

2 「前日」に勝負を決める(数値化と優先順位)

頑張っている最中に「次は何をしよう?」と考えるのは、脳のエネルギーを大きく浪費します。前日のうちに、やるべきことを「算数プリント1枚」「漢字3個」と数値化し、優先順位を決めておきます。

3 「ベビーステップ」をデザインする

最初の一歩を、あえて「机に座るだけ」「ノートを開いて、今日の日付だけ書く」という、絶対に失敗しない小さな行動(ベビーステップ)に設定します。

目標達成の極意は、「頑張る」という行為を、気合いが必要な「決断」ではなく、淡々とこなすだけの「確認作業」に変えることです。万全な準備さえあれば、当日は予定通りに動くだけ。私自身、仕事の進め方として大きな学びとなりました。

3学期は1年の締めくくりであると同時に、次年度への準備期間です。子どもたちが「準備の力」を味方につけ、着実にステップアップできるよう、教職員一同サポートしてまいります。

自分で動くの真ん中に—寄贈された大時計と歩む3学期—

1/8(木)、岩松全体協議会様（会長：池田正恭様）より、運動場に設置する立派な大時計を寄贈していただきました。



始業式に先立って行われた贈呈式で時計がお披露目されると、子どもたちからはその大きさに驚きの声が上がり、感謝の拍手が沸き起こりました。

これからは休み時間など、運動場で過ごす際もチャイムの音だけに頼るのではなく、自ら時計を見て「主体的に行動する力」を養ってほしいと願っています。素敵な大時計のご寄付をいただき、改めて本校が地域の皆様の温かい愛情に支えられていることを再確認いたしました。岩松全体協議会の皆様、本当にありがとうございました。

主体性を育む「生活のきまり」の見直し

12/24(水)、子どもたちの主体性を一層育成するため、現在の「生活のきまり」の在り方について検討会を行いました。今のルールが、子どもたちの自律的な成長を妨げていないか、改めて問い合わせることが目的です。



会議では、これまでのきまりの中に「マナー(礼儀)」「しつけ」「ルール(規則)」が混在している現状を整理しました。今後は、それらを明確に分けた上で、大人が管理するためのルールから、子どもたちが自ら考え、判断できる「余白」を大切にした構成へと移行する方針です。

今後は生徒指導主任を中心に児童会とも連携しながら、子どもたちと「自分たちの生活をより良くするためのルールとは何か」という原点を共有し、不要な項目を削ぎ落としていきます。子どもたちが納得感を持って生活できるよう対話を重ね、令和8年度版「生活のきまり」の策定に向けて歩みを進めてまいります。